

議 会 報 告 会 報 告 書

開催日時	平成28年1月27日 10時00分から 平成28年1月27日 11時40分まで			
開催場所	役場3階 302会議室			
参加人数	商工会8人 (男性7人、女性1人)			
班構成	2班 藤原 秀策、田中 久子、奥田 俊則、藤田 博 神吉 史久、小原 健一、宮宅 良			
役割分担	代表者	藤原 秀策	司会進行者	藤田 博
	報告者		記録者	宮宅 良
報告内容	<input checked="" type="checkbox"/> 議会の活動状況 <input type="checkbox"/> 予算等の審議状況 <input type="checkbox"/> その他重要と思われる事項 議会：議会の活動状況 商工会：商工会の現状と取組み <議会と語ろう会の懇談テーマ> 商工業の振興、活力あるまちづくり			
テーマに関する質疑	(質疑)		(答弁)	
	Q	播磨町の特産物を作れないかと考えているが、海苔やタコのほか、行政や商工会、シルバーや子どもたちなど、町全体として新たな商品が考えられたらと思う。	A	海苔やタコは年間を通してとれないので、特産物としては不安が残る。また、漁獲量によって値段が変動するので、利益を出すのは難しいのではないかと思う。年間を通して販売できるかという課題がある。
Q	ふるさと納税の制度を活用して、町がお礼の品として特産物の発注を行えば供給先を確保することができるのでは。また、ふるさと納税を活用する上で、物産などを担当する町職員の配置も必要と考えるが。	A	ふるさと納税について、過度の競争にならないようにという国の考えもある。町も特産品がないので消極的であるが、特産品の開発やふるさと納税の調査・研究は行っていく必要がある。 町には観光案内やアンテナショップはないが、土山駅南側に今春オープン予定のBiVi土山を活用することで、情報や案内を提供することができると考えている。	

	<p>Q 商工会や行政、議会も特産品の必要性は共通の認識だと思う。しかし、個人の企業に対して補助を行っていいのかなどで、前へ進まない。特産品の認証（認定）や補助を行えるシステムを議会から立案してもらいたい。</p>	<p>A 議会として提案していきたい。</p>
<p>意見・提言等</p>	<p>(意見・提言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 播磨町の特産物を販売する場所がない。また、どこに売っているのかなどの問い合わせもある。役場や公民館などにアンテナショップを設置してほしい。 ● 特産物の開発にはコストや労力が必要になる。仕事や家庭もあるので、高齢者や子どもにも携わってもらえるような計画や予算を考える必要があると思う。 ● ふるさと納税の本来の趣旨からは外れてきているが、法人版のふるさと納税の話もある。制度が拡大される中で、商工業者の育成や販売先を確保していくことができればいいなと思う。 ● 特産物を開発しても町内だけでは需要が望めない。例えば、神戸の有名なショップと一緒に取り扱ってもらえるようにするなどの工夫が必要だ。 	<p>(対応)</p>
<p>備考</p>		